

『いきいき人生設計』『うつ病を体験して』

アナウンサーの小川宏さん 奥出雲町で講演

アナウンサーの小川宏さんを講師に招いた奥出雲町健康づくり講演会が、三月二十六日、亀嵩温泉「玉峰山荘」横の玉峰交流施設で開催されました。（奥出雲町と奥出雲町自殺対策連絡協議会の共催）
小川さんは、昭和四十年から十七年間続いたテレビ番組「小川宏ショー」の司会者として広く知られ、誰からも好まれる庶民性と人間味あふれる司会進行・アドリブで、見る人の心を掴み、アナウンサーの従来のイメージを一変させ、一時代を築きました。
現在は、テレビ・ラジオへの出演の傍ら、平成四年に自らを襲った「うつ病」の体験についての講演や執筆活動に取り組まれています。
講演では、「プラス思考の人、好奇心を持って挑戦し続ける人が健康でいる」と人生における前向きな姿勢の重要性について話す一方で、自らが「うつ病」と診断されたときの経緯に触れ、うつ病治療の難しさや、病気に対する誤



ユーモア溢れる語り口で来場者を魅了

解や偏見について話されました。
また、「病気というのは、生活上での苦しみではあるが、人生の挫折ではない」「笑いは長寿の特効薬」「生命は地球より重い」などの数々の名言や格言を紹介し、病気に對する正しい理解や、前向きな姿勢の重要性について、改めて訴えました。
会場に訪れた約五百十人の来場者は、ユーモアある小川さんの講演の中に織り交ぜられた、人生設計のポイントを探しながら、熱心に講演に聴き入っていました。

グリーンツーリズムの魅力を紹介 しまね田舎ツーリズム 推進大会開催



中山さん写真右の講演の様子

農村や山村に訪問・滞在し、その自然と文化、人々との交流を楽しむ「グリーンツーリズム」。

この島根版、「しまね田舎ツーリズム」の推進大会が三月十三日、島根県とふるさと島根定住財団で構成する推進協議会が主催し、玉峰交流施設で開催され、町内や近隣市町で宿泊施設の経営や、地域づくり活動などを行っている五団体の事例発表、意見交換のほか、基調講演が行われました。
講演を行ったのは、大分県安心院町で「舟板むかしばなしの家」を営み、民泊希望者の受け入れを行っている、中山ミヤ子さん。

と題した講演で、中山さんは「民泊を始めた頃は、この町（安心院町）にも我が家にも魅力を感じなかったが、多くの人の出会いを通じて、素晴らしい出会いが思えるようになった」と、民泊を通じて、自分が暮らす場所の魅力を再認識したことを振り返りました。
また、これまで受け入れた民泊者とのエピソードを振り返りながら、「自分の考え方や人生を変えてくれたのは、いろいろな人たちとの出会い。それが民泊からいただいた宝物です」と話し、単なる町おこしに留まらず、そこに暮らす人たちの気持ちの変化をもたらすグリーンツーリズムの可能性に触れ、講演をまとめました。

この日訪れた約七十人の来場者は、中山さんの穏やかで包み込むような語り口に聴き入りながらも、講演の中から地域づくりのヒントを得ていました。

巣立ち 各分野のスペシャリストを目指して

島根リハビリテーション学院卒業式 【三月十日】

カルチャープラザ仁多で行われた卒業式には、保護者や在校生、多くの来賓など約四百人が出席。理学療法学科二十六人、作業療法学科二十五人の卒業生が、四年間の思い出と、学院生活で培った経験と知識を持って、全国の医療・福祉現場へ巣立ちました。
式では、谷川精規学院長が一人ひとりに卒業証書を手渡し、「四年間で学んだ知識と経験、『失敗から学ぶ』という積極性を持って、社会への一歩を踏み出してほしい」と式辞が述べられました。
これに対し、卒業生を代表して遠藤早紀さんが「これから先、多くの問題や課題にぶつかっても、学院の仲間や地域のみなさんのことを思い出し、力にしていきたいです」と学院生活を振り返りながら、感謝の言葉を述べました。
式の後には、学園祭などで交流のある三成保育所児童二十三人による元気な太鼓演奏が披露されたほか、在校生か

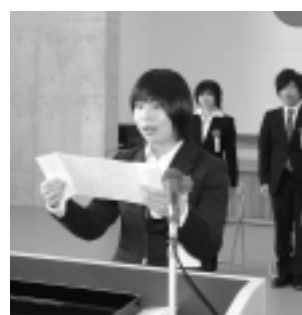


歌のプレゼントに感動

ら歌が贈られました。
在校生から歌が贈られることは卒業生には秘密にされていたため、思いがけない歌のプレゼントに卒業生は涙を流して感動していました。

島根デザイン専門学校卒業式 【三月十八日】

今年四人の卒業生が、数々の作品を生み出した学び舎を後にしました。
式では、青木和幸校長から卒業証書が授与された後、卒業生一人ひとりの学校生活での活躍を振り返りながら、「多くの人から学んだ言葉、知識、『マインド』を大切にしたい。そして、どんな時でも原点である、この学校を思い出してください」と卒業



感謝の言葉を述べる卒業生

生へ言葉を送りました。
そして、卒業生を代表して、ビジュアルデザイン科の青山未奈さんが「指導してくださった先生と、私たちを慕ってくれた先輩への感謝を忘れず、二年間での出会い、経験を大切にしていきたい」と感謝の言葉を述べました。
今期の卒業生は、奥出雲町合併五周年記念オリジナルフレーム切手や、奥出雲交通の路線バス、bjリーグ島根スサノオマジックのマスケットキャラクターなど、多くのデザインを手がけ、たくさんの人に親しまれる作品を残してきました。

島根リハビリテーション学院入学式 【四月八日】

医療・福祉の道を志す、理学療法学科三十五人、作業療法学科三十人の新入生が新しいキャンパスライフをスタートさせました。
カルチャープラザ仁多で行われた入学式では、はじめに新入生一人ひとりの呼名があり、谷川精規学院長から「自発性と行動力をもって積極的な学生生活を送り、明日を担う医療人として成長してほしい」と式辞が述べられました。

から、人とのつながりを大切にできる療法士を目指します」と誓いの言葉を述べました。
これから新入生は、理学療法士と作業療法士の国家資格取得のため、講義や学外での臨床実習を通じて専門知識を学ぶとともに、地域での様々な活動を通じて、コミュニケーション能力に優れた医療・福祉のスペシャリストを目指します。

島根デザイン専門学校入学式 【四月十二日】

島根デザイン学校では、ビジュアルデザイン科九人、モノ制作科五人が、多くの来賓、在校生や保護者など約七十人が見守る中、学生生活をスタートさせました。



誓いの言葉を述べる内部紗希さん

島根デザイン学校では、本校のように、自然に抱かれた環境だからできるデザインがある。この豊かな環境の下で、創作に必要な知識と知恵と技術を身につけるとともに、自然と学び、自然と遊び、想像をデザインする力を学んでほ



誓いの言葉を述べる梅美由紀さん

これから学生たちは、奥出雲の恵まれた自然環境の中で、創作活動の腕と感性を磨きま

希望を胸に 学生として新生活スタート